

京極高宣所長 “In Search of New Economic Theory on Social Security” へのコメント

社会保障応用分析研究部 金子能宏

1. 本論文の概要

本論文は、新しい社会保障の理論をR・ティトマスが提示した「社会市場」概念を用いて、現在の社会経済状況に合わせて構築するための理論的枠組みを提示した論文である。本論文では、まず社会保障 (social security) の意味を、現代資本主義の二つの大きな保障概念 (national security と social security)、社会保障制度審議会の昭和 25 年勧告および平成 7 年勧告それぞれと対比することにより、今日的な意味を明らかにしている。次に、社会保障、社会政策、社会サービスとの関係を給付と負担、施策と臨床という視点で区分しそれらの多層性を示し、また社会扶助と社会保障との区分を示している。

以上のような社会保障の意味と関連する諸概念との相互関係を整理した後に、本論文は、新しい社会保障の理論を求める際の分析用具として「社会市場」を用いるべき根拠とその有用性を「経済市場」と対比して論述している。本論文の特徴は、R・ティトマスの「社会市場」に依拠しながらも、ティトマスがこの概念を提示した時代よりも制度体系が整い、社会保障の個別制度の給付・サービスの需給規模が大きくなり複雑化した現実を踏まえ、その再考を求めている点である。

「私の社会政策論 (ソーシャル・ポリシー論) では、R・ティトマスのように、ニーズとリソースの対応関係を市場モデルでとらえるのではないのである。私はそれらが潜在的でなく、人々の意識上に浮かんだ顕在的な存在関係、すなわち社会保障の需要と供給という実際的な関係を重視して、それを社会市場と呼んでいる。」……引用A(7頁18~22行)

この問題意識に立ち、京極高宣博士は、ティトマスの「社会市場」が「経済市場」と対峙するのみであることを克服して、新しい社会保障の理論を求めるために次のように指摘している。

「私は一方でニーズと需要の次元を区別し、他方で資源と供給の次元を区別することにより、略していえば (N··D··S 型) というべき需給モデルを開発したのである。ここで重要なことは、社会市場はティトマスのように (N·R) の関係ではなく、(D·S) の関係に存在するのであり、フリードマンのように (D·S) の関係は経済市場にのみ存在するものではなく、社会市場にも存在するということである」……引用B(8頁23~27行)

ここから、社会保障の経済的機能にはセーフティネット機能のみならず内需拡大機能もあることを示し、したがって実質的な社会保障負担の規模を計るには社会保障給付の内需拡大機能を考慮した新しい国民負担率の概念が必要であることを指摘して、社会保障を国民経済の中で総合的に位置づけなければならないという結論を導いている。

本論文は、このような論理展開により新しい社会保障の理論構築のための分析枠組みと概念の再考と提示を行った上で、社会保障の質を達成する要素を仮説的に提示している。国民経済の中で社会保障を位置づけることが量的側面にとどまることなく、質的側面も視野に入れて理論構築を行っていくことが、今後の課題とされている。

2. コメント

R・ティトマスが「社会市場」の概念を提示したのは、1960年代後半から1970年代にかけてであり、当時と比べて国民経済に占める社会保障の給付と負担の役割と影響は、先進諸国の多くの国々で拡大したと考えられる。したがって、「社会市場」の概念を再考し、それを社会政策（ソーシャル・ポリシー）、社会サービス、社会扶助との多層性と相互関係を明らかにしながら、新しい社会保障の理論の軸となる「社会市場」概念に基づいて社会保障の機能をセーフティネット機能と内需拡大機能であることを示して、社会保障は国民経済の中で総合的に位置づけられる必要があると導くロジックは、説得的である。社会保障の給付と負担が高齢化の進展とともに増大する傾向があることは確かであるが、これらの伸びを経済成長率とリンクさせるべきかどうかについて議論が分かれる今日、本論文の提示した国民経済における社会保障の総合的位置づけの必要性は、重要な視座になる。ここから、提示された「社会市場」の概念や論点に基づく、実証分析、制度論的分析そして理論的分析の展開が、今後、期待される。

本論文はこのような意義のある論文であるが、以下の点についてお尋ねしたい。

- ① R・ティトマスの「社会市場」におけるニーズと資源の交換には、贈与交換が含まれる。社会保障のサービスの需給にはNPOによるものが含まれるが、それは贈与交換に関連すると考えられる。本論文では上記の引用B(8頁23～27行)のような指摘があるが、NPOの発展、市民の力の伸びを踏まえる場合、新しい意味での「社会市場」において贈与交換はどのように位置づけられるのだろうか。
- ② 社会保障の機能には内需拡大機能があり、これを考慮した新しい国民負担率の概念構成が必要であるという指摘は理解できる。しかし、内需拡大機能に分類されている雇用創出機能、生産誘発機能はそれぞれ労働需要と中間財需要につながる面と、生産力につながる側面がある。後者に視点を移すと生産力を伸ばすためには、企業の社会保障負担を適切な水準に抑制する必要があり(M・フェルドスタインが示したサプライサイド・エコノミクス)、内需拡大機能は内在的な制約があると考えられる。セーフティネット機能はライフサイクルのどんなイベントに対しても最低生活保障を行うという意味で、権利など制約に対抗する与件があるのに対して、内需拡大機能には制約に対する与件があるかいなか明瞭ではない。もしないとすれば、セーフティネット機能と内需拡大機能があることを認めつつ、両者の相違も言及するのがよいのではないだろうか。
- ③ 生産誘発機能には、社会福祉施設・医療施設整備のみならず、バンク・ミケルセンが提唱したノーマリゼーションの理念が社会保障の体系に普及するにつれて、施設のバリアフリー化やユニバーサルデザインの利用などによる社会資本整備も関連する。また、これらの社会資本整備が進むことにより、障害者雇用などが増える場合には、いわゆるアマルティア・センが指摘する潜在能力と雇用創出機能との関連性と、生産誘発機能と雇用創出機能の関連性いいかえれば同時決定性が生じる。新しい社会保障の理論を求めるためには、ティトマス以外にも、本論文で提示された新しい「社会市場」概念に関連する社会保障の理念があり、それらとの関連性にも言及する必要があるのではないだろうか。

コメントは以上であるが、ディスカッション発表会の後の改訂をへて、これらのコメントに対して言及され、今後の課題等が示されていることを付記しておきたい。すなわち、①については、

本論文の 3.System of the Social Security, □The function of Social Market as opposed to that of the Economic Market において言及されており、②と③については、3.System of the Social Security □What is the Quality of Social Security?において、今後の課題として言及されている。